

# 実物の美術作品を用いた鑑賞授業の開発と実践

—いつもの授業の延長で実物鑑賞を取り入れる方法—

M13EP006

塚原 英樹

## 1. はじめに

学習指導要領解説美術編では実物鑑賞の重要性が次のように述べられている。「地域によって美術館・博物館等の施設や美術的な文化財の状況は異なるが、学校や地域の実態に応じて、実物の美術作品を鑑賞する機会が得られるようにしたり、作家や学芸員と連携したりして、可能な限り多様な鑑賞体験の場を設定するようにする」（文部科学省，2008）。

確かに学校と美術館との連携が重視されるにつれ、美術館を活用した鑑賞教育の実践例も数多く目にするようになった。しかし、様々な美術館が提供しているプログラムはその殆どが美術館に足を運んで行う鑑賞の授業であり（横田，2012）、実際に生徒を美術館に連れて行くこと自体が困難な状況の学校では実現は極めて厳しい。もちろん県内の学校の中には幸運にも学校周辺の歩いて行ける距離に美術館があり、時間や費用等の特別な調整をしなくても美術館での鑑賞授業を行える学校も存在する。しかし、そのような恵まれた学校は全体の中のごく一部であり、多くの学校は実物の作品を用いた鑑賞を行いたいと思っても、実現には至らない。例えば、畔田・鈴木（2013）が中学校教師に対して行ったアンケート調査によると、利用したかったが調達のための時間が確保できず断念した教材教具として「実物や作品そのもの」が最上位に挙げられている。

実物の美術作品の鑑賞が、図版や複製作品の鑑賞に比べて生徒の意欲関心を引き出し、鑑賞の能力を伸ばすことにつながることは明らかである。実物には如何に美しく印刷され

た図版や精巧な複製品も及ばない確固たる魅力がある。例えば、村松（2012）は複製画により失われるものとして、作家の意図した大きさやマチエール等があることを指摘し、複製画を用いた鑑賞教育の授業は元々の美術作品とは別のものを鑑賞させているにすぎないと述べている。

現在、鑑賞教育の分野では対話型鑑賞やアートカードといった新たな鑑賞の方法が次々と生まれており、長らく美術教育の課題であった「鑑賞の充実」が図られつつある。その中では図版や複製画等を用いて、多様な鑑賞活動が行われており、作品の一部分を拡大したり、2点以上の作品を並べて比較鑑賞したりと、むしろ図版の利点を生かした鑑賞法の実践も数多い。筆者も中学校の美術教師として、これまで図版による鑑賞の授業を行い、ある一定の手応えを感じてきた。しかし実物の作品を見た経験が殆どない生徒たちに数多く出会うにつれ、学校の美術の時間で彼らに実物と向き合える機会を作りたいと考えようになった。図画工作・美術科で育みたい資質や能力である鑑賞活動への意欲や関心を高め、鑑賞の能力を向上させるために、実物を題材にした授業を開発することは、十分に教育的な価値があることだと考える。

多忙な学校現場において、学校外の施設等との連携や協力は決して容易なことではない。本研究の副題には、学校側にも美術館側にも大きな負担にならず、双方が少しずつ力を出し合うことによって、継続可能な取り組みにしていきたいという願いが込められている。先行研究で得られた知見を基に、県内の中学

校美術科の授業で実現可能な実物鑑賞の新たな可能性を探っていきたい。

## 2. 研究の目的

- (1) 実物の美術作品を用いた鑑賞の授業を学校で行うために、学校と美術館との新たな連携の在り方を探る。
- (2) 実物の美術作品の魅力を生かした鑑賞の授業を開発実践し、実物の作品が生徒の鑑賞への意欲や関心、鑑賞の能力の育成に効果があったのかを検証する。

## 3. 研究の方法

- (1) 研究に先立ち、中学生の実態把握を行うため、美術館や実物鑑賞についての意識調査を実施した。
- (2) 県内の美術館を訪問し、学校と美術館との連携の在り方を探るとともに、借用可能な作品があるかを調査した。
- (3) 実物の作品を題材にした鑑賞授業の開発と実践を行い、生徒の反応や学習プリントへの記述などから実物鑑賞の効果を検証した。

## 4. 結果と考察

### (1) 生徒への事前調査

本研究において、学校と美術館との連携の在り方を探るとともに、授業における実物鑑賞の効果を検証するため、県内A中学校の1年生(110人)に次のような事前調査を行った。なお、A中学校は一番近い美術館までは3.6kmの距離にある。

#### ①これまでにあなたは美術館や美術展に行ったことがありますか

ある	ない	覚えていない
25人(22.7%)	21人(19.1%)	64人(58.2%)

あると答えた生徒が全体の約2割に留まっ

ており、A中学校の生徒にとって美術館が身近な存在でないことが読み取れる。また、「ある」と答えた生徒や「ない」と答えた生徒よりも、「覚えていない」という生徒の数が非常に多いことが特徴的である。行った時期やどこの美術館にと行ったかを尋ねた質問でも、覚えてないという回答も多く、また博物館や科学館といった他施設との混同も見られることから、美術館自体をはっきりと認知していない生徒が多いことが分かる。

#### ②美術館に行ったことが「ない」と答えた人は、美術館や美術展に行かなかった理由はなぜですか(自由記述)

主な理由	人数
興味がなかったから	11
行く時間がなかったから	6
機会がなかったから	3

その他の理由
・美術館から遠い ・親の仕事がある ・面倒だった ・分からない ・何となく・そこまで考えたことがない

行ったことがない生徒の中には、興味が無いといった本人の美術館への関心の低さが理由で行かなかった生徒と、時間や機会がなかったという理由から行けなかった生徒とが混在していることが分かった。美術館との距離や親の仕事を理由に挙げた生徒もおり、美術館への見学経験の有無には、本人だけでなく周りの要因による影響もあることが明らかになった。

実際に「時間がなかった」「親の仕事がある」「美術館から遠い」「行く機会がなかった」と回答した生徒は、次の設問である今後、美術館に行ってみたいかという問いに対して、「とてもそう思う」と答えていることが分かった。学校行事等で美術館見学を行っていない学校では、美術館での鑑賞体験は完全に各家庭に

任されており、行きたいけれど家庭の事情で行けないという生徒にとっては、見学自体が困難な状況である。

### ③今後、美術館に行ってみたいと思いますか。

①の質問で、ある（ア）、ない（イ）、覚えていない（ウ）のそれぞれのグループについて集計した。

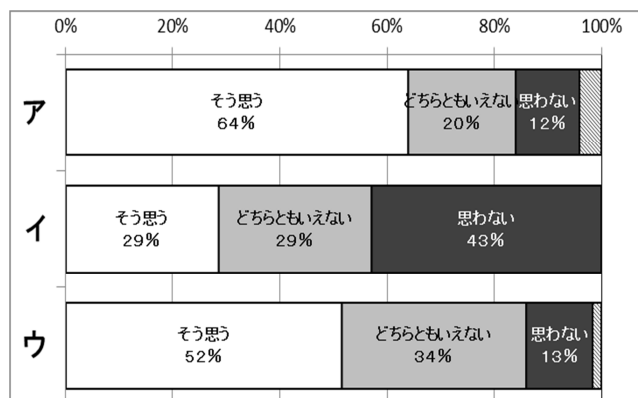


図1：生徒への意識調査の結果

美術館に行った経験がある生徒は、今後、美術館に行ってみたいと思っている割合が高く、逆に行った経験がない生徒は割合が低いことが分かった。また、覚えていない生徒も全体の約半数の生徒が美術館に行くことに対して肯定的に捉えていることが読み取れる。

この調査結果からは、美術館に行った経験のある生徒は比較的美術館に対して好意的な印象を持っており、反対に美術館に行った経験がない生徒は、美術館への見学に対してあまり積極的ではないことが分かる。

### ④美術館に展示されている作品を学校で借りられるとしたら、どのような作品を見たいですか。（自由記述）

主な作品	( )内は人数
・「モナリザ」	(26)
・「最後の晩餐」	(7)
・「落穂拾い」	(10)
・ピカソの作品	(5)
・「叫び」	(4)
・「種をまく人」	(3)

・「ひまわり」(3)	・ミレーの作品(2)
・「ゲルニカ」(2)	・ラッセンの作品(2)

その他の作品（一部）
・簡単には意味の分からない作品
・絵が隠れている作品
・同じ子供が描いたり作ったりしたもの
・見ててもあきないような作品
・昔の有名な画家の作品
・外国の有名な絵

この質問に対して、110名の生徒のうち、75名が回答をした。上の表からは、多くの生徒がレオナルド・ダ・ヴィンチやピカソといった有名画家やその作品を挙げていることが分かる。これは美術館の作品をイメージした時に、最初に浮かぶのがこれら著名な芸術家の作品であるのと同時に、有名な作品を見たいという純粹の思いからであろう。また山梨県立美術館のミレーに関する作品が多く挙げられていることも大変興味深い。ミレーの美術館として知られている県立美術館からは、各校にポスターやチラシ、夏休みの無料パスポートなどが配られるため、県内の中学生にとっては最も身近に感じる有名画家の一人である。

それに対して、「簡単には意味の分からない作品」や「絵が隠れている作品」といった深い読み取りを期待した回答もあり、生徒たちが見たいと感じている作品の種類は多岐にわたっている。

### (2) 美術館への聞き取り調査

#### ①手続き

県内の公立と私立美術館の中で、既に博学連携が行われている美術館及び、小中学生を対象とした鑑賞教育プログラムをホームページ等で紹介している美術館に対して、電話で本研究の趣旨を説明した上で調査の協力を依頼した。実際に美術館への訪問をして担当者

と面談をする中で、学校と美術館との連携の在り方について意見を交換し、実物鑑賞の授業への協力依頼を行った。

## ②結果

県内複数の美術館を訪問し、授業での活用を目的に借用可能な美術作品があるかを調査した。その結果、作品の種類や数は様々であるが、現時点において5か所の美術館で貸し出し可能な実物の作品があることが分かった。

- ・山梨県立美術館（甲府市）  
アートボックス・シリーズ
- ・増田誠美術館（都留市）  
増田誠の油彩画
- ・春仙美術館・桃源美術館（南アルプス市）  
名取春仙の版画作品
- ・河口湖美術館（富士河口湖町）  
河内成幸の版画作品

学芸員や美術館職員と面談をする中で、美術館側も生徒に実物を見せる機会を作りたいと考えていることが明らかになった。子どもの来館者を増やすための取り組みとして、技法を体験できるワークショップや子ども向けの鑑賞資料などを準備している美術館も多くあった。また、教育普及活動として、学芸員によるギャラリートークや出前授業も行っている美術館もあるが、学校側に負担感があり、あまり活用されていない。子どもが実物の作品を鑑賞することの意義については、美術教師と同様に強く感じていることが確認できた。

## ③考察

聞き取り調査の結果から、美術館側も学校における実物鑑賞について前向きに捉えていることが分かった。しかしながら、美術館と学校とが連携をするためには越えなければならないハードルが数多くあり、特に県内においては美術館と学校とが連携した鑑賞教育は

充実しているとは言えない。

まず、美術館と学校との距離の問題がある。県内では、学校周囲に美術館があるという学校は極めて稀であり、時間や費用等の問題から美術館への訪問は容易ではない。各美術館においては技法を体験できるワークショップを企画したり、子ども用の鑑賞の手引きなどを用意したりしているが、美術館に行くまでの段階に大きな壁が立ちはだかっている。所属校で行ったアンケートからも、生徒にとって美術館が身近な存在でないことは明らかであった。

加えて、この実践を行うことに対する最大の問題点は、作品を館外に出すことによる破損や劣化、盗難等の危険性についてである。しかし、美術館への調査の結果、学校への教育普及を目的とした貸し出し可能な作品を備えている美術館や、運搬に学芸員や美術館職員が携わることで貸し出し可能な作品がある美術館があることが分かった。作品の数はまだ多くないが、このような実践を繰り返していき、教育的な効果が広く実感できるようになれば、作品の種類や数が増えていくことが期待される。

学校と美術館との連携を考える上では、どちらだけが恩恵を得る関係では連携は長続きしない。両者にとって実りがある互惠関係を築くことが大切であるが、作品を学校に貸し出すことによって、将来的に美術館の入館者が増えるような取り組みにしていくことが重要である。

また、教師や学芸員の異動によって、せっかく築いた協働関係が切れてしまわないように引き継ぎや学校の枠を越えた図工・美術を担当する教師のネットワークの充実が求められる。

### （3）授業の開発と実践

美術館への調査や連携作りと並行して、実物の作品を用いた鑑賞の授業作りを行った。

実物の作品は南アルプス市立春仙美術館からお借りした2点の版画作品（作品ア、イ）を用いた。それらの作品を題材に、実習協力校である県内B中学校の2年生を対象に授業を行った。

また授業の開発に先立って、学芸員から名取春仙の生涯や画風、浮世絵版画の技法等の解説を受けることができた。筆者も初めて目にする技法があり、授業者自身の専門性の向上も連携の成果と言えるだろう。



作品ア「羽子のかむろ」



作品イ「木村重成」

なお、本題材では実物と図版を併用しているため、それぞれ以下のように表記する。

作品ア	実物・・・実物（ア）
	図版・・・図版（ア）
作品イ	実物・・・実物（イ）
	図版・・・図版（イ）

### ①題材の概要

題材名 「版表現の豊かさ」

内容のまとめり 2年・鑑賞

題材の目標は、図版や実物の版画作品に関心を持ち、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などを感じ取るとともに、多版多色刷り版画の伝統と文化に対する理解を深め、美術文化の継承と創造への関心を高めることである。

浮世絵に代表される木版画は、日本が世界に誇る美術文化である。浮世絵には富士山や歌舞伎役者といった当時の人々の憧れが投影されており、江戸時代の人々の暮らしや文化を学ぶ上でも大きな意義がある。また、浮世絵と印象派との関連から、日本と西洋の美術との共通点や相違点を探り、それぞれのよさや美しさを味わうことを通して、国際理解や各国の美術文化についての理解を深めるといった発展的な学習の可能性も秘めている。このように浮世絵を鑑賞の題材として取り上げる意義は大きいですが、加えて山梨県の文化的な土壌についても触れておきたい。

本県は全国的に見ても著名な版画家を数多く輩出した県である。そのため身近な地域の美術館においても、優れた版画作品をたくさん見ることができる。今回の授業で取り上げる名取春仙も地元出身の版画家である。最後の浮世絵師とも呼ばれた春仙は、明治から昭和にかけて活躍した絵師であり、日本では当時衰退しつつあった浮世絵の魅力を再び世に広めたという功績は高く評価されている。鑑賞する作品の作者が地元出身であることや、近隣の美術館に作品が数多く展示されているということは、学習者の意欲や関心を向上させる好材料である。

### ②授業の概要

座席配置図と授業の展開は次の通りである。

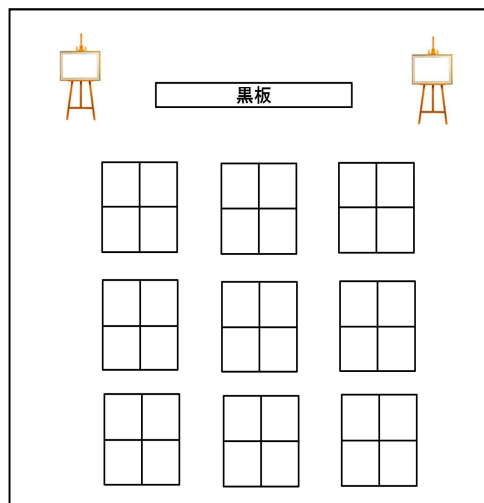


図2：座席配置

表 1：授業展開

	活動内容
導入	1. 本時の流れを確認する。 <b>板書1</b> 2. 4人ずつの小グループを作る。グループ内の役割（司会、記録、発表、道具係）を決める。
展開	3. 配られた図版（ア）を見て、第一印象をワークシートに記入する。 …… <b>記述A</b> 4. グループごとに図版（ア）の中で使われている色を探す。全体で意見を交流する。 <b>板書2</b> 5. グループごとに図版（ア）の人物像について話し合う。服装や髪形、動きなどから人物の職業や性別、印象などを想像する。 <b>板書3</b> 6. グループごとに図版（ア）と図版（イ）から、作品の作り方を予想させる。多版多色版画の制作方法について全体で確認する。 <b>板書4</b> 7. 各自席を離れて、教室前方のイーゼルに掛けられた実物（ア）と実物（イ）をそれぞれ自由に鑑賞し、感じたことや考えたことをワークシートに記入する。…… <b>記述B</b>
まとめ	8. 本時の授業を振り返り、学習内容のまとめをする。本時の作品が収蔵されている春仙美術館について理解する。

### ③実物鑑賞の効果を高めるための工夫

実物鑑賞を行う際は、事前に図版を用いた鑑賞が効果的との報告がある（畔田・鈴木，2013）。図版であれば一人一人が十分時間をかけて作品を眺めることができ、作品を指さしながら鑑賞したり、作品を回転させたりするなどの様々な鑑賞のアプローチが可能である。そして事前に十分な時間をかけて鑑賞をしておくことで、実物を見た際に細部までこだわって鑑賞することができる。

また今回の授業では小グループによる話し合い活動を取り入れている。グループで同じ作品を鑑賞することにより、お互いの見方や感じ方を交流させ、より深い鑑賞ができる。これは実物鑑賞に限ったことではないが、4名によるグループ活動は、それぞれが意見を発表し合い、互いの意見をしっかり聞ける形としては最適だと考える。

また発問は、色、イメージ、技法の3点について、それを段階的に学ぶことで、鑑賞の深まりを促すことができたのではないだろうか。特に図版を鑑賞する場面で、最初色についての視点を持って鑑賞を進めさせたことで、微妙な色の変化や光などにも意識を向けることができ、結果的に図版と実物との大きな違いである色に意識を向けることができた生徒が多くなったと考えられる。

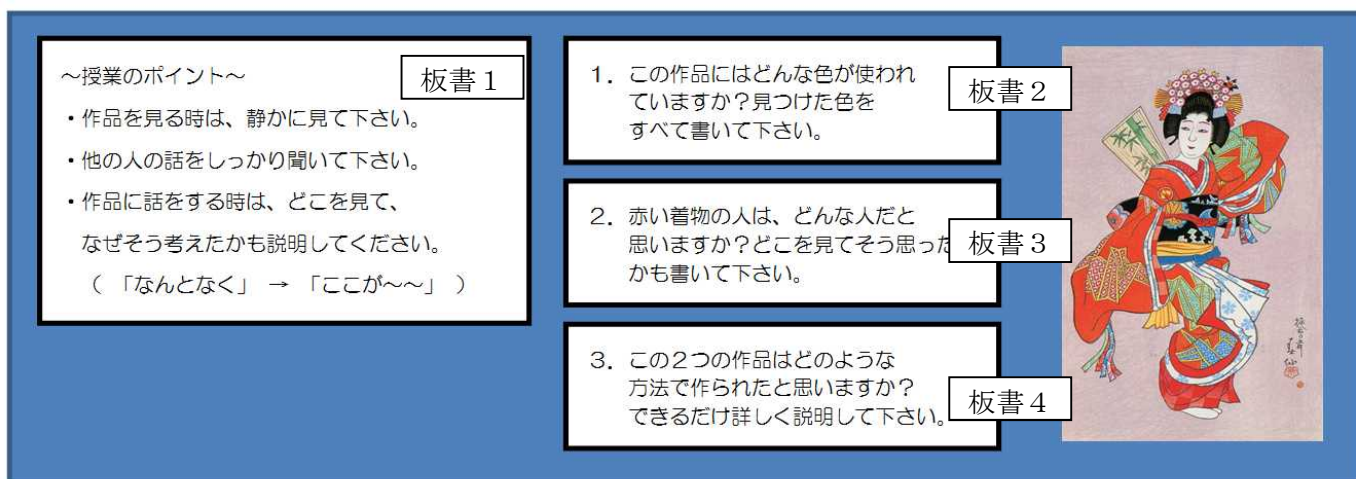


図 3：板書の流れ

加えて、実物との出会いの場面は本題材では最も大切な瞬間として捉えており、できる限り自然な形で自主的に作品と向き合ってほしいという願いを持っていた。そこで、敢えて2点の実物を見る順番を指定したり、それぞれを見る時間を区切ったりはしなかった。そうすることで、作品の魅力に生徒たち自身が気づき、もっと近くで見てみたいという積極的な学びの姿勢を引き出せたのではないだろうか。

#### ④実物鑑賞時の生徒たちの様子

授業の様子を撮影した2台のビデオカメラと生徒の会話を録音した7台のボイスレコーダーの分析から、実物鑑賞時の生徒の意欲と鑑賞の能力の高まりを検証した。それにより図版に比べて実物の鑑賞場面で生徒たちの意欲が高まっている様子が明らかになった。作品が置かれた教室前方のイーゼルを取り囲むように生徒たちが集まり、作品にぶつかりそうになる程に身を乗り出して鑑賞する姿が印象的であった。また、何よりも実物鑑賞に対して全く興味を示さない生徒がいなかったことが授業者としては喜びであった。

一人で鑑賞する生徒だけでなく、2、3人のグループで一緒に鑑賞する生徒もいたが、それぞれにとって効果的な鑑賞が出来ていたと思われる。個人で鑑賞をしていた生徒は、じっくりと自分のペースで作品と向き合うことができ、グループでの鑑賞では互いの意見を交換したり、感想を話し合ったりしていた。そうした鑑賞法については特に指導をしていなかったが、実物により意欲が高まったことを示す一例と言えるであろう。

#### ⑤ワークシートの記述の分析

図版を鑑賞した際の記述(記述A)と実物を鑑賞した際の記述(記述B)の変化から、実物鑑賞の効果を探っていく。(以下の引用箇所の下線は筆者による強調)

#### ・男子17：技法に着目した記述

記述A	一人で何かを見ながら踊っている様子。
記述B	実物の方が全体的に明るかった。写真ではよく分からない木の木目の所や、 <u>バレンでつけた線</u> も見えた。 <u>女の人のかんざしが光っているのも分かった。</u>

記述Aでは絵から受けた印象のみが書かれているが、記述Bでは印象だけではなく木版画の特徴や技法についても触れた内容になっている。かんざしの部分に使われている顔料に雲母が使われていることに気づくことができている。

#### ・女子4：人物の内面に着目した記述

記述A	お化粧もしていて、きれいな着物を着ていて、すごく美人な人だと思いました。それとお金持ちそうです。
記述B	実物の方が写真よりも、色が明るくて、きれいに発色していた。写真と実物では、結構色が違っていた。着物の実物は <u>おしとやかに</u> 見えた。男の人の実物は、はっきりしていて、 <u>堂々としているように</u> 見えた。

記述Aの段階で、作品の印象を基に自分なりの見方ができている。記述Bでは、図版と実物とを比較して、色の違いに注目している様子が分かる。自分なりの見方を深めていることが、人物の内面についての記述から読み取れる。

#### ・女子11：実物鑑賞の感動を表した記述

記述A	何で板が背中に？楽しそう。着物が色とりどりでキレイ。男だと思う。(歌舞伎?)
記述B	本物を見たら、 <u>意外と</u> 一つ一つの色がはっきりしていた。 <u>微妙な色</u> とかもちゃんと表現できていてすごかった。 <u>細い線</u> (髪の毛)もはっきりすごい。300枚しかないなんてすごい。 <u>そのうちの1枚を見れてすごかった。</u>



記述Aの段階で、登場人物が歌舞伎役者であることに気付いている。記述Bからは形と色について細部までよく観察できている様子が伝わってくる。また、実物作品の裏側に貼ってあった鑑定書を発見したことで、実物に対する価値意識が更に高まっており、素直な言葉で感動を表現している。

## ⑥授業の開発と実践についてのまとめ

実物の美術作品を用いた授業実践を通して、実物の作品が生徒の鑑賞への意欲や関心、鑑賞の能力の向上に効果があったのかを検証した。授業の様子やワークシートの記述等の分析を行い、一つの題材としての効果は確認できた。実物の持つ美しさや緻密さに感動していた生徒や、鑑賞の視点が増えたり読み取りが深まったりした生徒が多かったことが明らかになった。また、図版との比較鑑賞を通して、美術作品を大切にしようとする意識や作家への尊敬の念を抱いた生徒も多かった。

授業開発に関して、美術館からは作品の借用だけでなく、学芸員と授業の内容に関する相談もできたことは大変有意義であった。また連携を模索する中で協働的な関係が築け、授業に先立って学芸員からの専門知識を学ぶことができたことは、授業者自身の資質向上につながり、それらの知識を指導場面においても効果的に使用することができた。

## 5. おわりに

かつて筆者は、実物が図版になる過程で失われてしまった魅力を、知識によって補完するような鑑賞授業を行っていたことがある。その結果、自由な鑑賞とは程遠い、授業者の価値を押しつける授業にしまっていた。そうした中、ふとしたきっかけから実物を用いた鑑賞の授業を行う機会があり、その時の生徒たちの姿から、実物作品が生徒たちの主体的な姿勢を引き出せることを実感した。如何に一つの作品をじっくり見させるかに苦慮

していた筆者からして、生徒自身が自然と作品の魅力に引き寄せられ、真剣な眼差しで作品と向き合う姿は、本研究を思い立たせるに十分な理由であった。

勿論、全ての鑑賞の授業において実物の作品を用いることは現実的ではない。今後も大半の鑑賞の授業は図版や複製を用いて行われるであろう。しかし、鑑賞授業全体の中でほんの一部分でも、本研究のように実物を用いた授業をすることは大きな価値があることだと感じている。それは実物鑑賞が作品をみる視点を広げたり、読み取りを深めたりといった鑑賞の能力の向上に欠かすことができないものであり、本来は実物でしか深められない作品に対する愛着や美術文化に対する理解に大きく寄与するからである。

生徒にとって本当に有意義な鑑賞の授業にするには、何を鑑賞するかよりも、どの様に鑑賞させるかが重要なのは言うまでもない。ただ学校に実物さえ持って来れば良いという考えでは、生徒たちの心は美術から離れていってしまう。来年度も実物鑑賞についての研究を進めるあたり、そのことは常に心に留めておきたい。

## 6. 引用文献

- ・畔田暁子・鈴木香苗 (2013) . 「中学校美術科の鑑賞学習における教材教具の利用状況および課題」 . 美術教育. No. 297. 024～032
- ・村松和彦. 「メディアとしての複製画」 . 美術科教育学会誌 (32) . 405～416
- ・文部科学省 (2008) . 中学校学習指導要領解説 美術編」 . 日本文教出版
- ・横田香世. 「非日常空間での「体験」を日常生活の「経験知」につなげる美術鑑賞プログラムに関する研究」 . 同志社政策科学院生論集. 59～73